

横浜市が第9回アフリカ開発会議(TICAD9)の誘致を表明します

8月27日(土)・28日(日)にチュニジア国・チュニスで開催された第8回アフリカ開発会議(TICAD8)において、次回第9回会議(令和7年(2025年))は日本で開催されることが決定しました。

今後、日本政府により開催都市が決定することとなりますが、日本開催決定を受け、横浜市は、次回第9回会議(TICAD9)の開催都市候補に立候補し、市民の皆様、企業の皆様、日本アフリカ友好横浜市会議員連盟をはじめとする皆様とともに、誘致に取り組んでいくことを表明します。

1 TICAD 概要

アフリカの開発をテーマとする国際会議で、1993年以降日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、アフリカ連合委員会(AUC)及び世界銀行と共同で開催されます。アフリカ諸国、開発パートナー諸国及びアジア諸国並びに国際機関及び地域機関並びに民間セクターやNGO等、市民社会の代表等が参加します。

第4回(2008年)、第5回(2013年)第7回(2019年)は横浜市で開催されました。

2 第9回会議横浜開催によって期待される効果

(1) 経済波及効果の高い国際会議の誘致

日本政府主催の経済波及効果の高い国際会議を開催し、市内経済の活性化に貢献します。

(2) グローバル MICE 都市としての競争力強化

各国首脳級レベルが参加し、メディアからも注目の高い国際会議をホストすることにより、横浜のグローバルプレゼンスを向上させます。

(3) 市内企業のビジネス機会の創出

横浜の都市課題解決の経験や知見を生かし、アフリカの発展に貢献するとともに、地球最後のフロンティアと言われるアフリカの経済・活力を横浜に取り込みます。

(4) TICAD 開催を契機として開始した取組の推進

これまでの積み重ねてきた様々な市民交流を継続し、「アフリカに一番近い都市」として市民の国際理解に貢献するとともに、Civic Prideの向上、次世代育成につなげます。

【参考1】第7回アフリカ開発会議（TICAD7）横浜開催概要

- (1) 会期 令和元（2019）年8月28日（水）～30日（金）
- (2) 主催者 日本政府、国連、国連開発計画、世界銀行、アフリカ連合委員会
- (3) 横浜市テーマ 「アフリカと横浜、あふれる力でともに未来へ」
- (4) 会議参加者数 アフリカ53か国、開発パートナー52か国等 10,000人以上
- (5) 予算 約1億9,480万円（2か年）
- (6) 市内経済波及効果 約27億6,900万円（観光庁「MICE簡易測定モデル」による値）
- (7) パブリシティ効果 約155億円



TICAD7 集合写真：外務省提供



子供たちによるお出迎え

【参考2】TICAD開催を契機とした、アフリカとの交流・協力例

(1) 市内小中学校とアフリカとの交流

市内小中学校がアフリカの一国を交流国と定めて交流を行うことにより、アフリカ各国への理解を深めることを目的とした取組を行っています。TICAD7開催の際は、市内小中学校等66校（小学校57校、中学校8校、義務教育学校1校）がアフリカ33か国と交流を行いました。

(2) 水道、港湾、廃棄物管理分野で技術協力

横浜市は人口急増に伴うインフラ不足や環境問題などさまざまな都市課題を乗り越え、成長を続けてきました。こうした成長の過程で積み重ねてきた経験や技術を活かし、独立行政法人国際協力機構（JICA）や政府、国際機関と連携して、水道、港湾、廃棄物管理の分野で国際技術協力を進めています。

お問合せ先

国際局国際連携課長 関谷 聡 TEL 045-671-4719